

選ばれるデイ の条件と実際の取り組み

700軒以上の事業所を見学してきた
経験則から解説!

介護ぶらす 代表者／介護コーディネーター

山川 仁



1979年北九州市生まれ。2004年に訪問介護事業所の新規立ち上げを行い、管理者として勤務。その中でホームヘルパーの派遣だけでなく、老人ホーム選びで悩んでいる家族（介護者）の相談も多数受ける。そこで北九州市内の介護施設700軒以上の見学を実施。その後、2011年に在宅の介護サービスの導入から老人ホーム探しまで幅広く対応できる相談窓口「介護ぶらす」を開設。そして2017年7月には、電子書籍「老人ホームは本当に現代版「おばすて山」なのか?」「親を老人ホームに入れるのはまだ早い?」を出版。現在に至る。

生活支援型サービスを中心に据えた 介護保険に頼らないデイサービスの取り組み

●2018年の診療・介護報酬の 同時改定を見据え、 総合事業をどのように 取り入れていくのか?

2017年度に入り、多くの自治体で「介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）」が開始されたのではないかと思います。読者の皆さんの地域では活発な動きなどは見られますか?

私が住む福岡県北九州市では、2016年10月に総合事業が本格的にスタートしました。皆さんもご存じのとおり、通所サービスには「予防給付型」と「生活支援型」がありますが、指定を受けている割合が多いのは「予防給付型」の方です。北九州市では通所サービス事業所が500カ所以上あるため、もちろん「生活支援型」の指定を受けている事業所もたくさんあります。ただ、事業所が積極的に取り組むとすれば、「予防給付型」サービスの方ではないかと感じています。なぜなら、「生活支援型」のみの指定を受けている事業所がほとんどないからです。やはり、介護福祉士や看護師などを配置しているデイサービスでは、「生活支援型」中心の事業運営は非常に難

しいと思います。

こうした中、私も総合事業に関する情報を集めていましたが、「生活支援型」のサービスを中心に活動している事業所があるという情報を入手しました。しかもその事業所には、介護福祉士だけではなく保健師や作業療法士の方も運営にかかわっているとのこと。代表者が専門職であるということまでは理解ができます。しかしながら、「生活支援型」のサービス単価を考えると、その他のスタッフも「専門職である」ということは普通では考えられません。そうなる、この事業所には「私が想像もできないような運営ノウハウがあるのでは?」と考え、早速取材を申し込んだところ、二つ返事で引き受けてくださいました。

今回紹介する事業所は、北九州市小倉北区にある「生活支援型デイサービスみらい」です。事業所名の先頭に「生活支援型」と付けているところが、代表者の思いを表していますね。そして、インタビューでお話を伺ったのは、株式会社MIRAIの代表取締役である青柳潤あおやぎじゆん氏です。青柳氏は以前総合病院の手術室などで看護師をされていたとのことですが、一体どのようにして

「生活支援型」中心の事業運営を行っているのでしょうか？ 今回はその謎について迫っていききたいと思います。

インタビュー

株式会社MIRAI 代表取締役
青柳 潤氏

Q 青柳氏が現在の事業を始めた理由について教えてください。

代表取締役の青柳 潤氏



A 私は大分県出身なのですが、18歳の時に看護学校へ進学したのをきっかけに、北九州市に移り住むこととなりました。そして、卒業後はそのまま市内で看護師として勤務しました。

この事業を始める前までは、総合病院の手術室などで働いていましたが、重度の方も多く、入院患者と話す機会はあまりありませんでした。そのような中、私が高齢者にかかわる仕事に興味を持った理由は、看護の仕事をする中で、老人ホームに入居している方（親）や家族と話をする機会がたくさんあったからです。

やはり、家族としては「老人ホームに親を預けていること」を申し訳なく感じているようでした。しかし、親の心身機能などの低下に伴い、「介護に疲れてしまったから」「家にいても一人でいる時間が長いから」という理由で、泣く泣く施設に預けているのです。このような話を聞いているうちに、「高齢者が心身ともに健康でいられる時間を少しでも延ばしたい」と考えるようになり、「健康維持・増進事業」を始めようと思いました。

Q 「健康維持・増進事業」ではどのようなサービスを提供しているのですか？

A 弊社の展開している健康維持・増進事業の内容は、大きく2つに分けられます。1つ目は、会員制の日帰り外出企画「アクセル」の提供です。2つ目は、店内で多世代交流ができる場所として「三郎丸サロン」を運営しています。

デイサービス内の様子



アクセル

「アクセル」では、毎月会員様から出かけた場所の希望を募っています。そして、その希望の行き先情報を基に、弊社で外出企画を立てています。また、利用者から送迎の希望があれば、医療分野の資格を持った職員が自宅まで迎えに行きます。

現在、「アクセル」の会員数は増え続け、個人会員も100人を突破しました。会員には年齢制限なども設けていませんので、20～80代の幅広い年齢層の方々が登録してくれています。読者の皆さんの中には、健康維持・増進事業と聞くと、対象は高齢者とイメージしている人もいるかもしれませんが。しかしながら、この「アクセル」は介護保険とは一切関係のないサービスなので、年齢を制限する必要がないのです。実際、個人会員は元気な高齢者だけではなく、現役で仕事や育児をしている方もおり、その割合は全体の3～4割程度となっています。

また、基本的に日帰りにはなりますが、外出先にも制限などはありません。そのため、利用者の希望があれば、山口県下関市にある「唐戸市場」や福岡県朝倉市にある「キリンビール福岡工場」などにもお連れすることができるのです。

多世代交流で利用者も心豊かに！



三郎丸サロン

次に、「三郎丸サロン」では、近所にお住まいの方が気軽に立ち寄って、カラオケや麻雀ができる空間を提供しています。このサロンでも「アクセル」と同じく、要介護認定を受けていない方でも利用することができます。通常の利用時間は13～17時となっており、ランチセットメニューとデザートセットメニューのどちらかを選んでいただけます。1回の利用料は、それぞれ2,500円（お弁当代込み）と2,000円（デザート代込み）になっています。

最近では、少し離れた地域の方々からの問い合わせもあり、送迎付きのサービスを提供する機会も増えていきます。また、利用者の中には、デイサービスに行っていない日にサロンを利用する人もおり、少しずつではありますが、ケアマネジャーなどにも立ち寄っていただけるようになりました。

Q軽度者（非該当・要支援）に向けたサービスを提供している理由を教えてください。

A現在の仕事を始める前にデイサービスで働いたことがあるのですが、その中で「要支援1・2の軽度利用者と要介護4・5の重度利用者が一緒の空間で日中を過ごす」ということに違和感を持っていました。なぜなら、それぞれの心身の状況で日中の過ごし方は全く異なるからです。例えば、軽度利用者であれば、外出レクリエーションやリハビリテーションなどを好まれる人は多いです。反対に重度利用者は、ゆっくりと静かに過ごすことを望まれる傾向にあります。ですので、このような方々がデイサービス内に混在している場合、それぞれの要望を満たそうとすればサービス内容が中途半端になってしまうのではないかと思います。

デイサービスを効率的に運営するためには仕方がない部分もあるかもしれません。しかしながら、事業所側の都合だけでサービス内容を決めてしまうことに、いつも疑問を感じていました。そこで、自分自身で軽度者向けの事業所を立ち上げることになったのですが、初めから決めていたのは、「介護報酬に依存しないサービス内容にする」ということです。なぜなら、介護報酬に依存してしまうと、どうしても要介護認定を受けた方を中心としたサービス内容になってしまうからです。そのため、利用者の大半が非該当の方でも、事業が継続できるような仕組みを構築していきました。

また、団塊の世代が後期高齢者となることで、介護・医療費など社会保障費の急増が懸念される2025年を見据えると、要支援1・2の方だけではなく、要介護1・2の方なども介護保険のサービスが利用しづらくなるはずですが、そうなると、重度利用

者を対象としている事業所以外は、いずれ介護保険外サービスで収入を確保しなければ生き残れない時代になっていきます。こうしたことから、介護報酬を一切いただかない「アクセル」と「三郎丸サロン」を始めることになりました。

ただ、介護報酬に依存しない事業といっても、まずは利用者を探さなければなりません。そこで、近くの市民センターや地域包括支援センターなどを訪ねてみましたが、全くと言ってよほど興味を持ってくれませんでした。「市民センターに来ている人は自立した人たちなので大丈夫ですよ」「要支援の人はデイサービスがあるから問題ないですよ」というような感じで、相手にしてもらえないのです。

このようなことから、設立当初は「利用者が全くない」という状況でした。しかし、弊社では看護師、保健師、介護福祉士、作業療法士が運営にかかわっているため、利用者から依頼が来るのをのんびりと待っているわけにはいきません。そこで、北九州市の保健福祉局を訪ねたり、異業種交流会に参加したりしながら、「どうすれば利用者を確保できるか？」ということを目で考え続けていました。こうしたことがきっかけで、市から「生活支援型通所サービス」の実施を勧められて、事業者登録を行いました。つまり、総合事業を行うために起業したわけではなかったのです。

ただ、事業者登録をしたからといって、すぐに利用者を紹介してくれるようになったわけではありません。実際は、これまでの流れでケアマネジャーも「予防給付型通所サービス」を利用者に勧めるのです。ですので、ケアマネジャーからの紹介を待つだけではなく、「自力で利用者を確保しな

ければならない」と思い、異業種の経営者を中心に営業活動を行いました。洋服屋、新聞屋、クリーニング屋など、普通の介護事業所であれば絶対に営業に行かないような業種ですが、意外にも興味を持ってくれたのです。

実際、異業種の方が弊社のどのサービスに興味を持ってくれたのかというと、「生活支援型通所サービス」ではなく「アクセル」の方でした。なぜ興味を持ってくれたのかというと、経営者の方いわく「うちのお客さんは高齢者でも元気な人ばかりだから、外出企画を提案してほしい」ということだったのです。そこで、弊社からいろいろな企画を立てて提案したところ、積極的にお客様を紹介してくれるようになりました。現在でも売上の7割が「アクセル」の利用によるものですが、利用者の口コミなどで、法人会員（洋服屋・新聞屋など）や個人会員も着々と増え続けています。

Q 今後の課題や目標などを教えてください。

A この事業を始めて感じることは、「利用者の希望に沿ったサービスであれば、全額自己負担でも快く利用料金を支払ってくれる」ということです。そして、介護保険とは違い、サービス内容には何の縛りもありません。ですので、利用者をどこに連れて行ってもよいですし、20代や30代の利用者と一緒に外出を楽しむこともできます。また、ご自身で希望した行き先なので、どんどん歩きますし、利用者からすれば時間がたつのもあっという間のようなようです。このように、利用者が希望し

外出先では「歩きすぎ!?!」と心配になることも



ているサービスだからこそ、健康維持・増進につながるのではないのでしょうか。実際、外出先から帰ってきた後に、利用者同士で「次はどこに行こうか？」という会話も生まれています。

ただ、外出サービスを頻繁に行うためには、利用対象者を「介助なしで歩ける方」としなければなりません。裏を返せば、「要介護1～5の利用者をお断りする」という勇気を持つ必要もあります。それができなければ、このサービスを続けていくことはできないでしょう。とは言え、要介護1以上の認定を受けられた方の受け皿（デイサービスやデイケアなど）はたくさんあるので、実際に利用者が困ることはありません。ですので、私たちに求められた役割を果たすことに力を注いでいけばよいのです。

こうしたことから、この健康維持・増進事業をまずは北九州市で確立させて、いずれは全国に広げていきたいです。そうすることによって、国の介護保険の負担も減らしていけるのではないかと思います。

● 介護保険の延長線上に 保険外サービスはない

今回の青柳氏のお話はいかがでしたか？私も含め、介護業界で長く仕事をしてきた人にとっては、耳の痛い話かもしれません。なぜなら、青柳氏は「高齢者を元氣（自立の状態）にしていく」ということを事業の目標にしているからです。たとえ青柳氏と同じ考えを持っていたとしても、介護報酬に依存した事業であれば、なかなか実行に移すことはできません。やはり事業を始めた時から、介護報酬を当てにしていなかった青柳氏だからこそ、このように大胆な発想が生まれたのだと感じます。

「生活支援型デイサービスみらい」では、施設内で食事を作っているわけではありませんし、軽度利用者が好むようなリハビリテーション器具などありません。そのため、見学に来たケアマネジャーからすると、「何もないデイサービス」と見られることもあるでしょう。ただし、見方を変えると「利用者が過ごし方を自由を選べるデイサービス」ととらえることもできます。例えば、昼食も外出先で好きな物を食べればよいわけですし、外を何時間も歩き回った方が良好いリハビリテーションになることもあるでしょう。

このように利用者が主体となることで、「全額自己負担でも利用したい」というサービスが生まれてくるのではないのでしょうか？ 反対に、事業所が主体となって介護保険の枠組みで考えてしまうと、当たり障りのないサービスになってしまうはずで。結局、そのようなサービスは利用者が本当に求めている内容ではないため、「1割（もしくは2割）負担だから利用する」ということになるのです。これでは、ほかのデイサービスと差別化を図ることは難しいのではないのでしょうか？

ぜひ皆さんも「どのようなサービスであれば、全額自己負担でも利用してもらえるのか？」ということを前提にサービス内容を考えてみてください。そうすることで、利用者にとって魅力的なデイサービスになることができるはずです。

自分の食べたいものなので、お箸も進みます！

